

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・3か月前は前年比107.6%であったが、今月は同111%となっている。競合店が閉店したことで、売上がかなり伸びている。来客数は前年比100%を超えていないが、客単価が前年比約5%伸び、売上の増加に貢献している。同業他社についても前年比115%の伸びで、こちらも閉店した競合店の客が4～5%程度は確実に流れている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・忘年会やキャンペーン、年賀状印刷等の催事がある時期であり、景気は例年通り良い。ただ家庭での飲食が増え、飲食店は前年より悪い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入り、商店街に人が多くなっている。歳末のにぎわいを感じている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・クリスマスのギフトマーケットは厳しかった。ただし、お歳暮ギフトが前年並みとなった。また、敷物や時計、宝飾品等高額品の動きがかなり良くなり、単価も全体平均が前年を上回っている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年比2けたの伸長でこれまでにない伸びを示している。客の動きが良くなっている。
		百貨店（営業政策担当）	競争相手の様子	・売上が前年実績を維持する同業他社が定着してきた。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・売上がこれまで前年を上回ることがなかったが、今月は前年を上回っている。主な要因として、気温の低下に伴う重衣料や寝具等の防寒具の動きが良くなったことやクリスマスギフトで婦人雑貨が好調だったこと等が挙げられる。また、クリスマスケーキやおせちの予約も好調に推移しており、お歳暮はほぼ前年並みであった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数の増加はないが、買上点数が増えており、客単価が前年比105%になっている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店が閉店するので、前年比109%と好調に推移している。特に今月は生鮮食料品の青果が前年比112%で推移しており、クリスマス需要も高い。競合店閉店による好影響を受け、良い状況で推移している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は前年比96%であるが、販売点数が前年並みとなっている。特にお歳暮ギフトは単価は下落しているものの、販売点数が大きく伸び、売上は前年比106%になっている。地元産商品の販売が好調で、全体の伸びにつながっている。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・ここ数か月、前年割れとなっていた衣料品の売上が前年を上回り、お歳暮の売上実績も前年を上回っている。
		スーパー（売場担当）	来客数の動き	・来客数が前年比で伸長している。これから年末にかけて更に伸びる。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・創業100周年のイベントを開催し、単価が上がっている。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・12月に入り急に寒くなり、ようやくコート等の重衣料が動いた。先月までの売上がかなり悪かったので、例年よりセールを増やし、やっと前年並みの売上が取れている。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・来客数は減少傾向にあるが、客単価が前年より高く推移している。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・寒波の到来と冬物商戦の盛り上がりで、テレビ以外の商品に動きが出ている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・当社が発売したエコカーの販売量が伸びている。当社以外のエコカーをみても、前年を上回るものもあり、業界は全体的に前年を上回っている。
		その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	来客数の動き	・前年の12月に比べると新規の客が増えており、客単価も上昇している。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・九州新幹線の全線開業や東日本大震災の影響で九州に足を運ぶ人が増えており、年末の帰省客も増えている。1月いっぱいはこの動きが続くそうである。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数が増えており、景気は良い。
スナック（経営者）	来客数の動き	・週末はグループ客でにぎわい、平日も落ち込むことなく前年を上回っている。		

	観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・12月はおせちやディナーショー等、高額商品の販売が例年より好調であった。忘年会需要も多かった。
	都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・インターネット予約が伸長しており、団体の新しい大会が入っている。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・12月の需要期ということもあるが、携帯電話、スマートフォン共に販売が好調である。その関連商品も含めて売上は増加している。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・年末の清掃等、家事援助の個人サービス需要が増加している。今年も例年通り良い状況となっている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月前半の客の動きは良くなかったが、クリスマス過ぎあたりから少し良くなり、街に活気が出てきた。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・3か月前に比べると売上が上がっており、物の動きが良い。しかし、それは例年通りで景気の流れは変わらない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年はクリスマス商戦、歳末商戦を早く始めたが、来街者数、売上、単価いずれも低く、苦戦している。ただし、公務員のボーナスが出た週の土日等、週末は若干良くなっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・国の財政不安、消費税増税問題等、個人消費のマイナスを盛り上げるような要因が見当たらず、むしろマイナス要因が多い。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	競争相手の様子	・売上は前年並みを確保出来ている。数の子等も前年並みで推移しており、予約も入っているので変わらず良い。ただし、仲間内では今年は良くないといった話もある。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・12月の花屋は売れる時期であるが、今年はあまり売れておらず、数か月前と変わらない状況である。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・今まで減少傾向にあった売上が、今月はお歳暮商品もその他の通常商品も販売量が増え、例年以上の売上となった。ただし客単価は相変わらず低い。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温が下がり、防寒衣料の動きが良くなっている。クリスマスギフトの動きも良い。客が必要な物しか買わない傾向に大きな変化はないが、逆に必要な物はしっかり購買するようになっている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・日祝日及び土曜日の午前中の来客数は好調である。また、金曜日の午後の来客数も大きく伸びている。紳士や婦人の衣料品及び婦人雑貨は前年実績を確保し、新年に向けておせち等が好調となっている。ただし、店頭でのギフト受注は落ち込み、前年割れとなった。クレジット扱いは自社クレジットを中心に来客数、金額共に高伸長し、現金支払いが減少している。クリスマスや自家需要のぜいたく品の動きはあったが、依然、慎重な購買姿勢となっている。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客の買物に対する意識は、強くはないが弱くもない。必要な物、気に入った物は金額より内容を重視している。
	スーパー（経営者）	単価の動き	・東日本大震災があった年ということもあり、年末は不安定要素が多く、客は慎重な買物をしている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・今期は来客数が前年比5%程減った状況が続いている。ただし12月に入って気温が下がった影響もあり、衣料品は好調に推移している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・12月に入り気温が低い日が続いている影響で、実用衣料品、防寒具等の商品がよく売れている。食品では鍋物関係の食材もよく売れている。販売促進を強化し、売上は上がっているが、前年のエコポイントによるテレビの販売が好調であった時期の実績には届かない。また、お歳暮ギフトも実績的には前年よりも厳しい状況で推移している。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・寒さが本格的になり、売上の落ち込みに多少歯止めがかかっている。食料品については悪いなかでも冬物商材を中心に動きがある。
衣料品専門店（取締役）	単価の動き	・3か月前に比べるとセール期間中であり、物は動いている。ただし客単価は低く、クリスマス前まではあった動きも止まっている。総じて売上は前年を何とか上回っているが、景気は良くなっていない。	

家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電はアナログ放送停波前の駆け込み需要による反動減があったが、12月に入りそれは若干解消されている。ただし、この反動減はまだ完全には払しょくされない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・客の財布のひもが固く、買物を辛抱する傾向がある。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車の販売が思うように伸びない。メーカーの生産はタイの洪水の影響から立ち直り、ほぼ通常通りの供給があるが、広告を出しても客は少なく、新車の販売が計画を下回っている。
住関連専門店（店長）	来客数の動き	・来客数は増えつつあるが、単価と買上点数がなかなか増えない。客は購買意欲はあるが、節約思考が強い。
その他専門店【書籍】（店長）	販売量の動き	・3か月前も芳しくない動きであったが、今月そのままである。客の様子や売上をみると、世界経済の低迷に間違いなく日本経済も連動している。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格に変動はないが、寒波到来のため灯油の出荷量が増加している。ただし、客との会話においては、12月の賞与支給が期待したほどではなかったとの話が多い。
その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	単価の動き	・贈答品の出荷数量は前年とほぼ変わらないが、単価が下がっており、売上が落ちている。
その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（総支配人）	来客数の動き	・新規にテナントの導入を行い、施設の改善に努めているが、来客数は前年比99%と前年を超えることができない。また、購買する客も少ない。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・日本料理店は年間でも繁忙期に入る。例年と比べると大口の忘年会は少し減ったが、20～30人程度の宴会は例年通りであった。
高級レストラン（従業員）	お客様の様子	・男性客からのアフターのコーヒーの注文が減っている。
その他飲食【居酒屋】（店長）	単価の動き	・全国的に不景気であるため、単価の安い店は繁盛するが、手作りの料理を出す店はコストが高くなり経営が難しい。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・忘年会、披露宴共に前年並みである。宿泊数は前年比140%と関西方面からの宿泊が増加している。東日本大震災の影響で観光客はいまだ九州へ動いている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・12月は他の月と比較するのは難しいが、本年はおせち料理の販売が好調に推移し、前年比110%の販売であった。
旅行代理店（企画）	販売量の動き	・旅行は9月以降好調に推移しており、12月の動きも良い。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は思ったより忘年会の客の動きが良く、車が足りなかった時間帯もある。また、日中の買物客も以前より増えている。ただし、これは今月だけである。
通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りが厳しい状況が続いている。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・3か月前はサービスエリア拡大の特需で販売量は増えていたが、その特殊要因を除くと大きな変化はない。
通信会社（営業担当）	それ以外	・冬のボーナス時期であるが、各企業のボーナスの支給状況が良くない状況であり、携帯電話の売行きもあまり良くない。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・クリスマス、年末年始共に例年同様の動きである。ゴルフ客の動きが鈍い。一般旅行については、横ばいの状況である。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は前年に比べても良い方向に向かっている。特に12月前半は県外客が多く、後半は地元客が多くなっている。
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・12月は例年並みに雨や低温、強風の日が断続的にあり、ゴルフ場への客入りは徐々に減っている。
美容室（店長）	お客様の様子	・正月だから髪をきれいにするという以前の考えはなくなり、年末は急がしいので正月が開けてからゆっくり髪を切りにいこうという傾向が強い。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き ・12月の中旬までは暖冬の影響で来街者が減少し、売上は前年比20%減となっている。

	一般小売店〔青果〕(店長)	それ以外	・野菜関係は県外からの引き合いは高値で推移したが、地元で消費される野菜の価格は安くなった。ポンカンやメロン等の贈答品の価格は前年に比べてかなり安く、厳しい状況であった。	
	一般小売店〔精肉〕(店員)	販売量の動き	・忘年会シーズンにもかかわらず、飲食店向けの販売量が増加しなかった。	
	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・この時期に最盛期を迎える飲食テナントの宴会需要がまだまだ回復せず、前年比90%台と低迷している。	
	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・12月の来客数は前年比8%程度減少した。客単価も前年と同様で売上の低迷が続く。特に主力となる50~60歳代の購買額が下落している。	
	スーパー(店長)	単価の動き	・購入単価が下がっている。年末商戦の雰囲気はあるが、客は価格に敏感になっている。特に青果物等は相場高も加わり、売行きが鈍い。	
	スーパー(業務担当)	お客様の様子	・食料品については産地や原料にこだわる傾向が強くなり、この傾向は衣料品や家庭用品でも顕著になっている。買い控えの理由として、可処分所得の低下より放射能や有害物質等の危険因子を敬遠することのほうが大きい。	
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・東日本大震災の影響で年末年始の商品がほとんど売れず、販売量は厳しい状況である。	
	コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・12月の実績は前年を上回るものの、なかなか伸びがない。今月はクリスマスケーキも前年並みとなっている。	
	衣料品専門店(総務担当)	それ以外	・競合店が閉鎖したことによる好影響が薄れており、閉鎖する前の状況に戻りつつある。	
	住関連専門店(経営者)	来客数の動き	・順調に推移していた毎月のキャンペーンが先月あたりから低迷している。年末商戦は前年並みの売上を確保できたが、経費に見合うだけの売上ではない。	
	一般レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・定食や単価の安い物が出るが、相対的に売上は下落傾向にある。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・年末年始は韓国旅行と九州新幹線全線開業効果による南九州への人気集中している。海外は燃油サーチャージの高止まりが円高効果を相殺している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・今月は忘年会で夜はフル回転のはずであったが、金曜日だけ少し忙しい程度であった。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・10~20年位前はクリスマスとなればケーキを手家に向かう客が多かったが、今はクリスマスと言えども、そういう客は見かけなくなった。クリスマスケーキの販売量が減っているようだ。	
	通信会社(総務局)	販売量の動き	・新規契約数が前年比60%で推移している。	
	音楽教室(管理担当)	来客数の動き	・受験期や転勤で生徒数が少なくなり、厳しい状況である。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕(営業)	販売量の動き	・9月下旬から11月末までの販売促進策をしたため、12月は反動で売上が前年比で若干減少している。	
	設計事務所(代表)	来客数の動き	・問い合わせ及び来客数が減っており、厳しい状況となっている。	
	住宅販売会社(従業員)	単価の動き	・客からの物件の問い合わせが少なくなっており、客は資金繰りに苦慮している様子である。なかなか成約につながらない。	
	悪くなっている	スーパー(総務担当)	来客数の動き	・東日本大震災の復興の兆しがみえ、景気は回復基調ではあるが、円高や消費税の増税問題、さらには電力供給の問題があり、消費に影響が出ている。また客の節約志向を背景に生活必需品の購入も減少しており、来客数の維持が困難な状況になっている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・東日本大震災の影響か、人の動きが弱くなっている。消費者は購買に対して慎重になっており、様子をみているようである。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・年末年始用の商品に関して、量販店からかなり強い引き合いがあった。特に生産部門の加工関連では年末にかなりの残業が発生している。大手加工メーカー向けの原料肉の引き合いも相変わらず強く、納品できない状況も発生している。

	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係の販売は3か月前よりは需要期であるため、やや良くなっている。ただし、良い物が売れず牛肉は特に販売量が減っている。
	新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響で、上期の広告宣伝費を下期に回した企業が多く、東京地区の広告出稿が前年比120%と伸びている。ただし、九州地区の広告は前年並みか前年をやや下回っており、全体的には前年比100%をようやく超える。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・客の動向をみると年末ということもあり、販売量が相当に増えている。
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・設備案件における小口案件等、受注件数が増加している。業種は限られるが、医療関連等の大口案件の引き合いも出てきた。
変わらない	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末年始の忘年会や新年会目当ての飲食店の開業が多くなると見込んでいたが、今年は前年と比べて3割以上減っている。先行きの不安感や需要の落込み等が原因で出店意欲がなくなっている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上自体は前年より良くなっており、景気はそこまで悪くない。ただし、円高や株価の低迷が先行きの不透明感につながり、設備投資意欲を減衰させている。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と同じような状況である。仕事量を1か月にならして考えると、アンバランスな状態が続いている。もう少し景気が良くなれば、安定生産ができるが、受注が今一歩足りない。大変厳しい局面を迎えている。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・景気そのものは不透明感が強いが、良くなったり悪くなったりする状況が続いており、安定した状態がなかなか保てない。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事があるうちは良いが、完了すると先行きは不透明である。工事を長くすれば、原価がかかり過ぎる時期であり、下請工事も競争が激化する時期のため、厳しい状況である。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷動きは年末で少し動いたが、あまり変化はない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・大手下請の製造業の様子をみると、業況に大きな変化はない。相応の利益確保は厳しいが、月次で赤字ではなく、資金繰りもほぼ落ち着いている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・各企業の業績は依然厳しく大きな変化はない。企業は資金繰りの安定化を図り、中小企業金融円滑化法のもと、残金返済猶予等の条件変更の申し出が依然として多い。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・年商1億円前後の建設業等の中小企業は、リーマンショック以後、福岡のマンション業者の完成在庫が目途をついたのを機にマンション開発が活発になっている。銀行も融資姿勢を積極化し、仕事自体は増えている。ただし、単価が低下し、職人不足等が慢性化しているため、景気が上昇傾向であるともいえない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先の動向や資金繰りの需資等、例年通りで変化はない。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・現在は新しい仕事の受注、特にコンサルタント関係の仕事はほとんど期待が持てない。
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・消費者の買い控えが続いており、メーカーの売上が減少している。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量や問い合わせ件数に大きな変動はなく、取引先の業況にも大きな変化がみられない。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末商戦は出足が悪く、一層の不景気を感じる。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前は年末商戦用の注文が来ていたが、今年はほとんど注文が入っていない。定番商品もギフト商品も大分落ち込んでおり、厳しい状況となっている。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・タイの洪水の復興特需が一段落し、既存事業は受注量が減少している。
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・円高や株価低迷により、企業業績が悪化している。新政権発足後、いまだに景気浮揚策が出ておらず、景気はやや悪くなっている。
悪くなっている	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2～3か月前と比較して生産量は減少し、先月同様受注量も減っており、厳しい状態が続いている。

		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・建設コンサルタントは市町村が発注する業務が減少しているため、入札時の価格競争が激しい。予算の30～40%で入札するケースもみられる。経費分しか残らないため、落札しても経営は厳しくなる。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年末需要だけでなく、社員等の欠員での注文が増えている。今まではどちらかというと、残った人員での対応をしていたが、現在は補充をする企業が増えている。また、九州新幹線全線開業の効果で、郷土料理店からの注文が多くなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業の求人は落ち着いているが、通販業界はパート、アルバイト等から正社員になる傾向が強まり、人材確保に積極的な企業の動きがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は16か月連続で前年比で増加しており、求人状況は改善傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比べて求人数の増加がみられた。特に今年の傾向でもあるフルタイム求人の増加が目立っている。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前年に比べ企業の採用意欲が感じられる。実際に求人件数は前年より数%増加している。来年度の採用計画についても、現時点でサービス関連で増員予定の企業が数件出ている。	
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年末年始の短期の派遣数が例年より減少している。自社雇用で充足しているためである。自社雇用は派遣より給与が低いため、経費節約のために行っている。そういう状況下で求職者が増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と比べて、求人数の動きがほぼ同じである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・最近、大型の商業施設が相次いでオープンしているため、求人広告での採用が難しくなっている。また、介護関係も人の採用が難しくなっている。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・12月の新規求職者数は先月に引き続き前月を20%程下回る見込みであり、新規求人数は同4%程の減少見込みである。求人倍率は11月が0.64倍であったが、求人の伸びが鈍化していることから大きな伸びは期待できない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比20%の増加と3か月前とほぼ同水準の増加となっている。現時点においては企業の採用意欲は依然として高い。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・派遣需要の長期案件は例年並みであるが、従来からの派遣利用企業の派遣離れが進んでおり、特に電機メーカー等、輸出に依存する割合の高い企業は更新をせずに契約を終了するケースが増加している。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・選考活動の結果、採用予定数に満たないまま選考活動を終了している企業が見受けられる。また、前年と比較して、増加傾向であった求人件数は前年並みに近づいている。
やや悪くなっている		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・半導体メーカー等、東日本大震災からの特需が一段落しているが、企業別に明暗がはっきりしている。雇用者の残業が軒並み増加し、増員にて繁忙期に対応している企業もあれば、早期退職を募る企業もある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・新聞の求人広告は、医療福祉関連や教育、塾の採用が目立つ。ただし、アルバイトや嘱託が中心で正規雇用は厳しい。
悪くなっている		民間職業紹介機関（支店長）	雇用形態の様子	・派遣需要の伸びが依然として前年割れである。需要の縮小や競争激化、価格の下落と負の三重スパイラルとなっている。